

8-4-3 維持管理対策WG

1. 主な活動の記録

維持管理対策WGは、社会資本の維持管理・更新を効率的に推進するために、平成25年6月に設置された協会内の推進組織である。新たな技術や全体システム等を提案し、発信する役割を担っており、WG長を筆頭に8つの専門分野の委員で構成されている。

(1) WGの活動内容

- a) 道路橋メンテナンス技術講習の持続・継続実施と課題解決に向けた取り組み：令和5年4月～令和6年2月
- b) 橋梁定期点検における非破壊検査の活用にかかる技術交流：令和5年4月

(2) 道路橋メンテナンス技術講習の開催

平成27年度に初めて開催された「道路橋メンテナンス技術講習」は、令和2年度と令和3年度には新型コロナウイルスの感染拡大の影響により2年連続で休止せざるを得ない状況となった。しかし、令和4年度には専門講義の全カリキュラムにリモート形式を採用し、関東支部および近畿支部の協力・支援のもと、東京と大阪の2地区で再開し、令和5年度も令和4年度と同様に2地区で開催した。

- ・開催日：令和5年11月6日～10日（5日間）
 - 1～3日目：専門講義（座学）
 - 4日目：現地実習
 - 5日目：達成度確認試験等

- ・受講者：計52名（東京27名、大阪25名）
- ・合格者：計45名（東京24名、大阪21名）

当講習の課題の一つであった受講者へのインセンティブに関しては、平成28年度以降、達成度確認試験（学科試験、実技試験）を実施し、合格者には一般財団法人橋梁調査会の「道路橋点検士補」の受験資格（学科試験のみ）が与えられている。さらに、点検技術者の質を確保するための点検資格等の取得義務化が進められている中で、達成度確認試験の合格者には、令和5年度から直轄管理橋梁の点検・診断業務

の配置担当技術者に保有が求められる技術者資格等の一つとして認められている。

アンケート調査の結果によれば、受講者全体の87%が満足感を示し、内容、説明、時間に対する各評価も専門講義、現地実習のいずれも概して良好であり、8割を超える受講者が今後も継続すべきと考えているなど、肯定的な意見が多数を占めた。令和6年度の開催にあっても、国土交通省等関係機関と連携、調整しながら効率的に運営することが重要であり、今年度の経験も生かしながら更なる工夫や改善に努めていくことが求められている。

なお、達成度確認試験合格者（受講者）の個人情報の保管・管理については、協会本部の協力のもと、IMAGEWORKSのIDを取得し、同システム上で過年度分を含む全データファイルを保管・管理することになった。

(3) 一般社団法人日本非破壊検査工業会（JANDT）との技術交流

令和5年1月に国土交通省道路局国道・技術課が橋渡し役となり開催された技術交流会への出席をきっかけに、令和5年4月24日に開催されたJANDT主催のインフラ点検技術講演会に当WG委員1名を派遣し、「インフラ維持管理の高度化・効率化に関わる技術動向について」と題した講演を行った。

2. 次年度の活動方針

(1) 技術講習の継続と課題解決

- a) 過年度の活動を継続し、道路橋メンテナンス技術講習を実施する。
- b) 持続的かつ継続的な運営を目指し、具体的な対応策を提案する。

(2) 適正な報酬設定と業務システムの改善

- a) 近年進歩している点検技術・手法について、適正な報酬設定を検討する。
- b) 新たな課題を整理し、適正な業務システムを提案する。

（維持管理対策WG WG長 山手 弘之）